

東京2025世界陸上競技選手権大会

© フォート・キシモト



1等陸尉
勝木隼人

男子 35 km 競歩
第 3 位
2 時間 29 分 16 秒

令和7年9月13日(土)~21日(日)「東京2025世界陸上競技選手権大会」が34年ぶりに東京で開催され、大会初日の13日(土)男子35km競歩に勝木隼人(かつきはよと)1等陸尉が出場し、第3位の成績を収めた。

最も過酷な陸上競技と言われる競歩は、国立競技場を発着地点とし明治神宮外苑の周回コースを舞台に熾烈なレースが繰り広げられた。猛暑による影響を考慮し大会2日前にスタート時間の30分前倒しが発表されたが、当日の東京の暑さと高い湿度は選手たちの体力を確実に奪っていった。



スタート直後から先頭集団のトップでレースを引っ張ったのは日本代表の勝木1尉と川野将虎選手(旭化成)。レース後半では勝木、川野、ダビド・ウルタド(エクアドル)3名の選手が先頭集団を形成し、27kmを過ぎた頃に勝木1尉はやや遅れをとる場面もあったが懸命に追いかけて、ウルタドは3枚目の警告でペナルティゾーンへ。周回コースを残り3周とする29km付近で2位を歩く勝木1尉にメダル候補のエバン・ダンフィー(カナダ)が追いつき一気に前に出る。最後の給水を終え残り1周の33kmでダンフィーが先頭、一緒にレースをけん引した川野は失速、カイオ・ボンフィム(ブラジル)が追い上げて2位に、勝木1尉は3位に浮上しメダル圏内に必死に食らいついた。さらに気温と湿度も上がる厳しい環境の中、目が離せない展開で沿道の応援にも力が入り、「やる気・元気・勝木」コールが大きく鳴り響いた。メダル獲得を皆が願う中、勝木1尉は周回コースから国立競技場トラックへと向かい、最後まで粘り強い歩きで2時間29分16秒の3位でフィニッシュし、日本勢メダル第1号として会場から大きな歓声と拍手が送られた。



レースを終えた勝木1尉は「金メダルを取りたい気持ちと最低限メダルを取れてほっとしている気持ち。男子選手の最年長として日本チームに勢いをつける、やるべきことをやるという気持ちで歩いたので、メダル獲得という最高の形でレースを終えられたと思う。」と安堵の表情を見せ、「本当は優勝したかったが世界のトップ選手は想像以上に強かった。メダル獲得は自分だけの力ではなく、沿道からの応援と一緒にレースをけん引した仲間たちの力もある。」と感謝の気持ちを語った。(写真：フォート・キシモト)

